

真宗佛光寺派  
大阪教区・  
別院だより

# 大悲

第60号

令和8年(2026年)  
1月1日 発行



岸和田の山に雪はらはらと（岸和田市）

一昨年の米大統領選は「私にとって」驚きの結果でした。ネットを駆使した選挙戦が展開される昨今、国内外で選挙のたびに「フィリターバブル」に注意しましょうという呼びかけを耳にするようになりました。

スマホなどでネット検索を繰り返していると、次第に自分と同じ意見や趣味の情報が優先的に表示されるようになります。そして自分と異なる意見や分野の情報に触れづらくなり、まるで泡の中に閉じ込められたように視野が狭くなってしまうのです。

こうして自分にとって心地のよい意見や情報こそが、世間のスタンダードなのだと思ってしまう、時には自分と異なる意見は間違っていると攻撃さえしてしまうようになります。

仏教は「自我」を解決すべき根本問題として、自分への執着によって他との衝突を招き、互いの苦悩をうみ出していると説きます。

今年も、自分の泡に閉じこもっている私の姿を、仏さまに照らし出させていただきます。

（門川 崇志）



# と う ひ が ん 到 彼 岸



友の喚び声

光福寺 たまで そうじゆん 玉出 宗順

しかし実際「いつ命が終えていくか分からない身を抱えている」という言葉に触れてもそれは自分のことではない、まだ体も元気だし大丈夫、命終えるのはまだまだ先だと根拠もなくそう思い込んでいました。

## どこまでも他人事

佛光寺派の歴代御門主がお念仏の教えをまとめられた『御勸章』の中に「人の命がはかないということは、夕方を待たず、朝を迎えることもできないほどである。たった一息の間にも死は迫ってくる」という意味の一節があります。

同世代の友人が亡くなっても、『御勸章』の言葉に遇っても自分自身に突きつけられた問いであるのに、いつの間にか自分以外の問題だとなおざりにしてきました。

私の姿は自分にとって都合のいいこ

とは認め受け入れるが、そうでないことは受け入れない。そして時には大切な問いとも思わず排除し、考えるということさえもませんでした。

## 私の姿

この度の出来事は「命ははかない」という教えを聞きながらも本音では死を遠ざけ、目を背けているという私の姿を浮き彫りにしました。

さらにお念仏の教えは他の誰でもない私へ「悲しく、苦しい現実ではあるけれど、どうか目を背けず、自分事として聞いてくれ」と喚びかけます。

仏となられた二人の友人がその身をもって、この私に喚びかけてくれることに気づかされ、自分の問いとして向き合うご縁をいただいたのです。



それは突然の知らせでした。昨年、短期間に同年代の友人が二人亡くなりました。とても驚き、心が波立ちました。また二人の友人には自分の息子と年の近い子どもがおられ、さらに胸が締め付けられる思いでした。常々、「私たちはいつ命が終えていくか分からない身を抱えています」とご門徒にお話ししてきました。またそのような言葉も聞いてきました。

# 如にょ是ぜ我が聞もん

## 許されて生かされる

東京教区 西徳寺 山崎哲師やまざき ひろし



ずっと見守られていたことに  
ようやく気がつきました。

### 生き方が変わる

自分自身でこの場に立って  
いると思っていきましたが、こ  
の場に立たせていただく背  
景には多くの方々のお支えが  
あり、その方々に私がこの場  
に立つことを許されていると  
いうことです。許されて、願  
われているわが身であること  
に気がついたところから、よ  
うやくにして自分自身をいた  
だき生きれる身となります。

### 聴聞して

私のいのちそのものが、す  
でに私の思いを超えたもので  
あり、私自身が尊いいのちの  
繋がりに生かされる身である  
ことを改めて知らされました。

令和七年十月二十七日、大

阪別院報恩講が厳修されまし  
た。山崎哲師は真覚ご門主が  
御親教に引かれたご和讃「無  
礙光の利益より 威徳広大の  
信をえて かならず煩惱のこ  
おりとけ すなわち菩提のみ  
ずとなる」のお味わいをご法  
話くださいました。

### 叔父の言葉

十四歳の時、父が急死した  
ことで、北海道の母方の実家  
のお寺に引越しをしました。  
高校入学前に突然叔父に「お

坊さんになるための研修を受

けてみないか？ いずれ役に  
立つかもしれないぞ」と言わ  
れ、役に立つのならと思ひ、  
受講を決意し、資格を取らせ  
ていただきました。

当時、東京の西徳寺で法務  
員を勤めていた従兄の紹介に  
より、大学卒業後、西徳寺に  
入寺させていただきました。

三十一歳の時、本山佛光寺  
で布教使の試験を受ける際、  
たまたま叔父が同席しており、  
ずっと心の奥底に気にかかっ  
ていた「なぜあの時、私を受

講させようとしたのですか？」

と尋ねました。すると叔父は  
即答で「念仏のみ教えに触れ  
る機会になってくれればと思  
った。あの時の君の境遇を不  
幸と思ってほしくなかった」  
と言いました。確かに父さえ  
生きていればと不平不満を言  
い、父がいないことで苦勞す  
ることもあり、不幸な人生だ  
と思つたこともありました。

「かならず煩惱のこおりとけ  
すなわち菩提のみずとなる」  
というのは、転ずるといふこ  
と、叔父の優しい言葉に実は

(中井翔隆 記)

# 大阪探検

## 大阪モノレール



走るモノレール



運転者気分



車窓から太陽の塔



イド（ウォーキングマップ）やイベントが紹介されています。  
（寿栄松正顕）

大阪モノレールは1990年に開業し、大阪国際空港（伊丹空港）から門真市を結ぶ全長28kmの日本最長のモノレールです。開業当初から空港アクセスを担い、大阪北部の住宅地を結ぶ路線として発展してきました。現在では日常生活の移動手段としても利用され、大阪の交通網に欠かせない存在となっています。

### のんびりとした移動時間

電車に比べてスピードは控えめです。それがかえって心地よきのんびりとした時間を生み出しています。路線は都心部を通らないため、混雑した都会の風景ではなく、広々とした郊外の

景色が広がり、移動中も穏やかな時間が流れるこ

とでしょう。

### 車窓から広がる大阪の景観

モノレールの魅力は、車窓からの眺めにもあります。大阪国際空港を出発すると遠くに大阪のビル群が現れます。次は吹田市の万博記念公園にそびえる太陽の塔、新幹線の車両基地、淀川を渡り、門真市へ。先頭車両には進行方向に向く席があり、運転している気分も楽しめます。また途中に千里中央や万博記念公園など特色ある駅が多く、気ままに途中下車して散策するのも楽しみの一つ。移動手段であると同時に、大阪らしい風景を楽しめる乗り物として親しまれています。

詳細はホームページをご覧ください。沿線ガ

# ごえんさんを訪ねて

ほんぎょうじ

## 本行寺 (大阪市生野区) 三上 教道 住職

みかみ きょうどう



本行寺は寛永12(1635)年に創建されました。元の本堂、庫裏は明治21年8月の暴風で倒壊するも翌年再建。

昭和12年、ご門徒から土地の寄進を受け、現在の本堂を建立されました。

### 先代住職の功績

本行寺の基盤を確固なものにしたのは、先代の法道師が、福井県の金津村から縁あって本行寺住職三上正道師の養子となり、入寺したことによります。

法道師は、眼鏡レンズの生産拠点であった「めがね村」と言われた田島村の子どもたちを教育することに情熱を注ぎました。

昭和9年、自坊での日曜学校を拡充して、田島神社の一角を借りて幼稚園を開設し、昭和12年、田島町内に新園舎を建て、正式に許可を受け、



本行寺本堂内陣

愛和幼稚園の設置となりました。

法道師は法務と平行して、本行寺を母体とした幼稚園、保育所、福祉の専門学校、老人ホームなど教育福祉事業を通じて仏恩報謝の心を伝えることに生涯を捧げました。

### 後継者として

現住職の教道師は、住職としてまた、先代が残された大事業の後継者として奮闘されてきました。とりわ

け大阪府・大阪市の幼稚園連盟で長年にわたり重責を担われてきました。理事長をされている大阪教育福祉専門学校では卒業研修として本山佛光寺に参拝、毎年のカリキュラムには「親鸞聖人の教え」を取り入れ、幼稚園行事では「仏教讃歌」や「恩徳讃」を唱和されます。

各施設のホールにはお内仏を安置して、仏さまに手を合わせる子どもに育てることに尽力されています。

専門学校の学生を連れ、20年間にわたり、ホノルルマラソンを完走されたり、全国の名山の単独登頂された頃を振り返り、「年老いて 夢は野山を かけめぐる」という心境ですとお話しくださいました。

(長田 譲)

■本行寺(ほんぎょうじ)

〒544-0011

大阪市生野区田島4-13-19

電話 06-6753-0010

Fax 06-6754-2800

# 大悲トピックス

## ■大阪別院報恩講



㊤ 御親教 ㊦ お勤め

10月27日、真覚門主御親修のもと報恩講が厳修されました。当日は晴天に恵まれ爽やかな法要となりました。お勤めに続いてご門主より御親教（おことば）を賜り、山崎哲布教使の法話を聴聞しました。

引き続き、大阪教区内寺院門徒の4名がご門主から帰敬式を受けられました。

大阪教区物故者追弔会では、教区寺族の方々もお参りくださり、あらためて追弔の意を確かめました。

（大阪別院輪番 葦名彰）

## ■大阪別院報恩講に向けた仏具おみがき

10月17日、

大阪別院の報恩講前に仏具おみがきをしました。



仏具おみがきの様子

自坊の仏具はコーティングしていただきますので、おみがきをする機会はなくなっていました。年々一度、教区僧侶仲間とワイワイしながら、楽しく仏具おみがきに励みました。

（中井翔隆）

## ■懇志御礼

新潟県三条市 徳誓寺様

## ■お悔やみ

謹んで哀悼の意を表します。

第六組・光念寺

松野正暁様（10月1日寂）

第三組・超願寺

道野知恵様（10月25日寂）

### 真宗佛光寺派 如来寺

気がつけばいつも  
お蔭さまのなか  
芦屋市川西町8-6  
住職 藤谷 信道

### 御本山 近 用達

### 株式会社 川勝法衣店

フリーダイヤル 0120-075-055  
(〒600-8344) 京都市下京区花屋町通油小路東入  
電話 (075) 371-0367(代)  
FAX (075) 371-5088

### 創業100余年・お墓の専門店

### 石留石材株式会社

土日祝もご相談いただけます（8時～17時）  
0120-53-5578  
■本社：大阪府藤井寺市津堂2丁目9番29号

### 表具 八木米寿堂

御本尊掛軸修理 絵画、書の表装  
〒600-8073  
京都市下京区柳馬場通仏光寺上る  
tel 075-351-2853 fax 075-352-3258

### お墓なんでも相談センター

永遠の想いを像に還るお手伝い

### ヨシザワ

株式会社 吉澤石材工業所

フリーダイヤル 0120-49-1482

浜屋は関西最大級の  
お仏壇・お仏具・墓石・御寺院お仏具の  
専門店です。

### やすらぎの世界を創る 浜屋

通話料無料/浜屋郵路本社フリーダイヤル  
お問い合わせお申し込みは 0120-1616-94  
●受付時間/午前10時～午後6時30分

# だいひ 絵日記

④

10月15日(水) 大悲の会編集会議(第60号読み合わせ)

10月17日(金) 佛青懇和会研修会(仏具おみがき)

10月27日(月) 大阪別院報恩講 ①

10月30日(木) 大悲の会編集会議(第60号読み合わせ)

11月19日(水) 大悲の会編集会議(第60号読み合わせ)

12月 9日(火) さつき会研修会

(気持ちを共有できる場所、講師：玉出 宗順 師) ②

12月25日(木) 大悲の会編集会議(第60号発送作業・第61号内容検討)

12月27日(土) 佛青懇和会研修会(曇鸞讚に聞く、講師：日下 貴行 師)



協 賛

**佛青懇和会**

大阪教区の青年会  
(会長：松野正暁)

協 賛

**さつき会**

大阪教区の坊守会  
(会長：中井秀子)

協 賛

**法友会**

大阪教区の住職会  
(会長：善本和彦)

## ■誌面広告の募集 (『大悲』発行は広告によって支えられています)

企業・団体・寺院の広告を誌面に掲載させていただきます。

1区画(55mm×40mm)、掲載1回につき5,000円です。

## ■定期購読の受付 (ご門徒の皆様方にもお渡しく下さい)

『大悲』の定期購読は、1部につき30円です(送料込)。10部単位でお願いいたします。

## 法要のご案内

### 大阪別院修正会

1月2日(金)正午

### 大阪別院彼岸会

3月17日(火)午後2時

法話:隅谷 俊紀 師(高照寺)

3月20日(金・祝)午後2時

法話:葦名 彰 師(妙圓寺)

3月23日(月)午後2時

法話:玉出 宗順 師(光福寺)

## お寺の掲示板

人は

線のないところに

線を引いて争う

## 編集秘話

「妖怪川柳コンテスト」がAIの発達により、人間が考えた作品と判別困難を理由に打ち切りになるという。巻頭で取り上げた進化したネット選挙ではファクトチェックの出来も選挙結果を揺るがせる。戦前の「大本営発表」は現代のフェイクニュースにも通じる。騙されないためには「世間虚仮」の視点が必要か。(長田)

## 編集後記

大阪教区内外のご住職とお会いしたときに、『大悲』の内容とともに、長年続いていることへのお褒めのお言葉をよくいただきます(自画自賛ですいません……)。しかし、意欲、体力、惰性、費用などなど、あらゆる面で継続していくことの大変さを痛感している今日この頃です。今号は記念すべき第60号! (編集長・隅谷)

大阪教区・別院だより『大悲』 第60号(冬号)  
令和8年(2026年)1月1日発行 (発行部数2200部)

発行:大悲の会

事務所:佛光寺大阪別院内

〒558-0011 大阪市住吉区苅田6-11-24 電話06-6691-1362

郵便振替口座:口座番号「00990-4-305218」加入者名「大悲の会」

ホームページ(HP) <http://daihi.org/> (ご意見・ご感想はHP内の「お問い合わせフォーム」より)

大悲の会

長田 譲(会長)

隅谷 俊紀(副会長)

寿栄松 正頭(会計)

玉出 宗順(会計)

門川 崇志(監事)

佐々木 太一

葦名 彰

中井 翔隆